

令和3年度 多忙化解消アクションプラン

「限られた時間内で子供に力をつける教職員」を支える体制づくり

関市立金竜小学校

1. 目標

- ・高学年、教頭、教務主任、生徒指導主事の空き時間を昨年度より増やす。
- ・時間外勤務時間の月平均を、昨年度より1割縮減する。

2. 加配教員に係る実施状況

加配措置状況		実施教科	実施状況					
非常勤	(週時間)		5年生			6年生		
		実施	学級	時間	実施	学級	時間	
1	22	理科	○	4	12	○	2	6

※週22時間のうち18時間は授業、4時間は準備等

3. 実践内容

(1) 校長のメッセージ

働き方改革を推進していく上で最も大切なことは、校長がどんな学校にしたいのか、どんなことを大切に運営していこうとするのかを職員に伝え、共有することである。以下はその校長のメッセージである。

教職員も、子供も「明日も来たくなる学校」
毎日、子供が「宝物を持って帰ることのできる学校」

そのために、この1年、職員と大切にしたいこと

① 心身ともに健康な教職員 元気が一番！

- ・心身が疲弊しては、よい学習指導、生徒指導はできません。
- ・子供は、教師の人間性に感化されます。(笑顔・声をかける)
- ・「感じのいい人」

② ワンチームで立ち向かう

- ・「教職員同士仲が良い。いい雰囲気を出している。楽しそう。」って間違いなく子供にいい影響を与えます。好影響の波及効果。
- ・一人で抱え込まない。「うちのクラスの～さんが気になります。」と声をあげましょう。(早期発見・早期解決) いじめがおきた学級をつくったら力のない教師と見られるのはもう古い。力のある教師は小さなことも見逃さない、隠さない教師だ。
- ・第三者からの言葉は有効
「～さん、担任の〇〇先生がすばらしいって喜んでいたよ。」

③ 限られた時間内で子供に力を付ける

- ・「月45時間・年360時間」の中で、教育活動を充実させるための取組を優先的にやり、捨てる勇気をもたなくてはなりません。

(2) 加配教員や外部人材の活用

- ①非常勤講師、専科指導教員、働き方改革促進プロジェクト非常勤講師を活用し、3年生以上(特に5・6年生)の担任の空き時間を確保する。
⇒ 5・6年生の空き時間(週5時間)の確保
- ②一部教科担任制を行ったり、担任同士で交換授業を行ったりする。
⇒ 職員アンケートでは、9割以上の職員が教材研究や児童と向き合う時間が増えたと回答。
- ③スクールサポートスタッフ(市会計年度任用職員)を活用し、印刷・配付作業を中心に教職員の事務業務のサポートを行う。
⇒ 教職員一人当たり月0.83時間の削減効果があり、教職員の業務負担が軽減できている。
- ④外部人材(教育相談員)が不登校児や教室に入れない児童の対応をし、担任は、自分の学級の児

童の指導に注力することができる。

⇒ 職員アンケートでは、9割の職員が外部人材の活用は有効性があると回答

⑤地域ボランティアが、週1日トイレを中心に掃除を行う。

⇒ 掃除をやらない日を週1日から週2日に増やすことができ、担任が児童と一緒に遊んだり、休憩したりできる時間をつくるできている。

(3) 日課表の見直し

①朝活動(8時20分～8時30分)をなくす。⇒ 10分のゆとりを生み出す。(コロナ対応)

②下校時刻を早める。(5時間授業15時00分→14時40分、6時間授業16時00分→15時30分)
⇒ 20分～30分の放課後の時間を増やす。

③掃除がない日を週1日から2日にし、昼読書や児童集会を位置付ける。(掃除ボランティアの協力)

④登校時刻を20分遅くする。

(7時40分ごろ校舎開錠→8時校舎開錠)⇒ 朝、余裕をもって子供を迎える。

(4) 教職員への働きかけ

①「18時退校」「19時退校」のプレートで啓発

②毎月の時間外勤務時間が45時間を超える教職員への指導と見届け

4. 評価結果

	高学年担任の 平均空き時間数			教職員の月当たりの平均 時間外勤務時間(4月～11月)								
	5年生	6年生	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	4～11月平均
R2	5.0	5.0	5.0	12時間28分	5時間03分	44時間35分	45時間09分	7時間08分	41時間30分	42時間30分	31時間18分	28時間42分
R3	5.0	5.0	5.0	38時間35分	25時間00分	38時間40分	28時間31分	1時間54分	21時間47分	35時間31分	30時間33分	27時間30分

【45時間超の分析・検証結果】

- ・4月は、1,6年生担任の時間外勤務時間が特に多かった。年度始めの業務が当該学年に偏っていると分析した。業務の分担や効率的な仕事の進め方を職員に働きかけた。その結果、翌月からは時間外勤務時間を徐々に減らしていくことができた。
- ・6月,10月は、教務主任や教頭が学校運営上の業務や、初任者指導(公開授業の準備等)にかかわったため時間外勤務時間が多かった。
- ・日課を見直し、放課後の時間を増やしたことで、勤務時間内に業務を行う時間が増え、退校時刻を早くすることができた。その結果、時間外勤務時間が前年同月より縮減された。(4,5月を除く)

5. 成果と課題

【成果】

- ・高学年、教頭、教務主任、生徒指導主事の空き時間を昨年度より増やすことができ、教員の負担を軽減することができた。
- ・教員の負担が軽減した分教員に余裕ができ、児童と向き合う時間を確保することができた。
- ・高学年の教員は空き時間が増えたことで、担任として学級経営や学年経営のための業務が今まで以上にはかどったり、生徒指導事案に対して早期に対応する時間を確保したりすることができた。
- ・教頭、教務主任、生徒指導の空き時間が増えたことで、学校内で発生した諸問題に対して早期対応、早期解決につなげることができた。
- ・空き時間が増えたことで放課後の時間の使い方に余裕ができ、若手教員が先輩教員から学ぶ時間をもつことができるようになった。
- ・業務負担軽減が実現できたことで、教員の抱えるストレスを緩和することができた。
- ・以前は意識が弱かったワーク・ライフ・バランスの実現に目を向けることができるようになり、自らの人間性や創造性を高めることで、子供に対する効果的な教育活動につながった。

【課題】

- ・毎日の退校時刻が早くなり、時間外勤務時間の月平均は縮減されたが、目標とした時間外勤務時間の月平均を昨年度より1割縮減は、0.4割にとどまった。
- ・時間外勤務時間が45時間を超える職員は一定数いる。その傾向や要因をさらに細かく分析し、分掌の見直しや業務内容の精選を行いたい。